

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Language Variation of Word-Final Long Vowels of Loanwords in Written and Spoken Japanese

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小椋, 秀樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001523

書き言葉と話し言葉における外来語語末長音のゆれ

小椋秀樹 (立命館大学文学部)

Language Variation of Word-Final Long Vowels of Loanwords in Written and Spoken Japanese

Hideki Ogura (College of Letters, Ritsumeikan University)

要旨

外来語表記のゆれには発音のゆれが関わっているといわれるが、表記のゆれと発音のゆれとの間にどの程度関連があるのかについては、十分に明らかにされていない。そこで、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(出版・書籍)と『日本語話し言葉コーパス』とを用いて外来語の語末長母音の表記と発音のゆれの実態調査を行った。

調査の結果、長音符号を省略した表記の割合(符号無表記率)は17.0%、短音で発音した割合(短音率)は7.7%で、表記と発音との間にずれが見られた。この表記と発音とのずれの要因としては、(1)《エアー》《ソファー》《ボディー》等の特定の語において符号無表記や短音化が高い度数(比率)で生じていること、(2)語末音「ティ」を持つ語において符号無表記が広範囲かつ高い度数(比率)で生じていることの2点が指摘できる。

1. はじめに

日本語の表記のゆれの中でも外来語の表記のゆれは、報道機関における表記の基準作成などに関わって問題となることが多い¹。しかし、現代の日本語において外来語表記にどのようなゆれが見られるのかという実態については十分明らかにされているとは言い難い状況にある。このような問題意識の下、小椋(2013, 2014, 2015)では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCCWJと略す。)を資料として、外来語表記のゆれの実態調査を行った。

この外来語表記のゆれについては、宮島・高木(1974:1)に、

- (1) 「インキ～インク」「ピアノ～ピヤノ」「タイプライター～タイプライタ」の一方をかく人が、実際そのとおり発音しているとはいえないだろう。しかし、これらの表記にゆれがみられる背景には発音があるはずであって、発音の慣用が一定しさえすれば、「ピンク」「メキシコ」の表記が一定しているように、「インキ～インク」「テキスト～テキスト」のゆれもなくなるだろう。

とあるように発音のゆれとの関連が指摘されている。また、佐竹(1986:416)には、外来語の長音の表記のゆれ(長音符号で書くか母音字で書くか)をめぐって「その語をどのように発音しているかという発音・語形が大きくかかわってくる」という指摘がある。

小椋(2013, 2014, 2015)では、外来語表記のゆれを表記の問題としてのみ扱った。しかし宮島・高木(1974)、佐竹(1986)の指摘を踏まえると、外来語の発音のゆれという観点も加えて、外来語表記のゆれについて多角的に調査、検討していく必要がある。また、そもそも外来語表記のゆれと発音のゆれとの間にどの程度関連があるのかについて明らかにしていく

¹ NHKの放送用語委員会では外来語の語末長音や二重母音[ei]などの表記について議論が行われている(塩田2006, 山下2012, 2015, 2016参照)。

ことも必要である²。

そこで本稿では、外来語語末長音を対象に、BCCWJ と『日本語話し言葉コーパス』(以下、CSJ と略す。)とを用いて外来語語末長音の表記と発音のゆれの実態調査を行い、外来語語末長音の表記と発音との関係について明らかにする。

以下、2節で調査資料とするコーパス(レジスター)、調査対象とする語の範囲について述べる。3節で調査結果を報告し、4節でその結果を基に外来語語末長音における表記と発音との関係について考察を加える。最後に5節で本稿をまとめる。

なお本稿では、語の表記を示す際には、「フィルター」「フィルタ」のようにかぎ括弧を付けて示し、語を示す際には《フィルター》のように長音符号を用いた表記に二重山括弧を付けて示す。

2. 調査資料・調査対象

2. 1 調査資料

本稿では、外来語語末長音の表記のゆれを調査する資料として BCCWJ を、同じく発音のゆれを調査する資料として CSJ を用いる。

BCCWJ は複数あるレジスターから成るコーパスであるため、今回の調査においてどのレジスターを調査資料とするかが問題となる³。複数あるレジスターから調査資料とするレジスターを選定する際の観点としては、以下の3点が挙げられる。

- (2) ・ CSJ に収録した 2000 年前後の話し言葉と同時期の書き言葉を収録したレジスターであること。
 - ・ 発音のゆれと表記のゆれとの関係を明らかにするという目的から、国が定めた外来語の表記の基準である『外来語の表記』(1991年、内閣告示第2号、内閣訓令第1号)に忠実に従おうとするレジスターではなく、表記の選択に関して著者の自由度が高いレジスターであること。
 - ・ 外来語は、異なり語数、延べ語数のいずれにおいても比率が低いことから、調査に十分な用例数を確保することのできる大規模なレジスターであること。

一つ目の観点からは 2001 年から 2005 年に発行された書き言葉を対象とした出版・書籍、出版・雑誌、出版・新聞の3種のレジスターが候補となる。これら3種のレジスターにおける外来語語末長音の表記の実態については、小椋(2014)において調査を行っており、出版・書籍における語末長音の表記のゆれが2割台で最も高く、表記に関する著者の自由度が高いことが確認されている。さらに3種のレジスターの中で延べ語数が最も多いのも出版・書籍である(延べ語数 2800 万語)。以上の理由から、今回の調査では出版・書籍を調査資料とした。

BCCWJ, CSJ とも言語単位として長単位と短単位の2種類を採用している⁴。今回の調査では、このうち短単位を用いた。ただし BCCWJ と CSJ とでは、外来語の短単位認定に違いがある。BCCWJ, CSJ ともに原語で1語に相当するものを最小単位とする点は共通している。しかし BCCWJ ではその最小単位を他の最小単位と結合させずに単独で1短単位とする

² 外来語の表記と発音については、NHK 放送文化研究所がアンケート調査を行っている。その結果については、石野(1974)を参照。

³ BCCWJ の設計については、前川、山崎(2014)を参照。

⁴ BCCWJ の言語単位の概要、単位認定基準については小椋、小磯、富士池ほか(2011)を、CSJ の言語単位の概要、単位認定基準については小椋(2006)を参照。

のに対して、CSJでは他の最小単位一つとの結合までを1短単位としている。例えば、「フリーツアー」「逆フィルター」は、BCCWJ、CSJでそれぞれ次のように単位認定される。

(3) BCCWJ : |フリー|ツアー| |逆|フィルター|
CSJ : |フリーツアー| |逆フィルター|

今回の調査では、CSJの単位をBCCWJの基準で修正し、単位の長さをそろえた上で集計し、分析を行った。

2. 2 調査対象

調査対象とする外来語の語末長音の表記については、『外来語の表記』で次のように規定されている。

(4) 英語の語末-er, -or, -arなどに当たるものは、原則としてア列の長音とし長音符号「ー」を用いて書き表す。ただし、慣用に応じて「ー」を省くことができる。

[例] エレベーター ギター コンピューター マフラー
エレベータ コンピュータ スリッパ

長音符号で表記することを原則としているが、長音符号を省く表記を慣用として認めている。

本稿で取り上げる表記のゆれは、『外来語の表記』の規定に関わる、「コンピューターーコンピュータ」「セキュリティーーセキュリティ」等の語末長音を長音符号で書くか省くかというゆれとした。そのため、「シチューーシチュウ」「ルーールウ」等の語末長音を長音符号で書くか母音字で書くかというゆれ、「プレーープレイ」「ショーーショウ」等の長音符号で書くか連母音で書くかというゆれは取り上げなかった。発音のゆれについても、語末を長音として発音するか短音として発音するかというゆれを対象とし、長音で発音するか連母音で発音するかというゆれは取り上げなかった。

小椋(2014)では、英語の語末が-er, -or, -ar, -ty, -dy, -gy, -ryの外来語を調査対象としたが、本稿では英語の語末による限定を加えることなく、語彙素(CSJでは代表表記)の語末に長音を持つ外来語を調査対象とした⁵。BCCWJ(出版・書籍)については短単位データ1.1を対象に『中納言』2.2.2.2で、CSJについては短単位データ(CSJ第4刷)を対象に『ひまわり』ver.1.5.4で用例を収集した。それぞれの検索条件は、以下のとおりである(例として、語末ア段長音の検索条件を示す。)

(5) BCCWJの検索条件式

```
キー:(語彙素 LIKE "%[アカサタナハマヤラワガザダバァ]ー" AND 語種="外")
IN (registerName="出版・書籍" AND (core="true" OR core="false"))
WITH OPTIONS tglKugiri="|" AND tglBunKugiri="#" AND limitToSelfSentence="1" AND
tglFixVariable="2" AND tglWords="20" AND unit="1" AND encoding="UTF-16LE" AND
endOfLine="CRLF"
```

(6) CSJの検索条件

[検索文字列]ー [代表形(短単位)] : [アカサタナハマヤラワガザダバァ]ー

⁵ 語末長音を持つ一部の外来語においてBCCWJの語彙素とCSJの代表形・代表表記とで語末長音の表記が異なる場合がある(例:BCCWJ「ドア」、CSJ「ドアー」)。CSJの方が長音符号を付けるものが多い傾向にあるが、このような差異が生じている語は多くないと予想される。差異が生じている語については、符号無表記の語彙素も検索対象に含めるべきであるが、今回の調査では含めていない。今後の課題としたい。

[フィルタ] - [代表表記] : [アカサタナハマヤラワガザダバァヤ] - [で終わる]

3. 調査結果

3. 1 語末母音と表記・発音のゆれ

ここでは、BCCWJ (出版・書籍)、CSJそれぞれにおいて、外来語語末長音の表記・発音のゆれがどの程度生じているのか見ていく。

BCCWJ (出版・書籍)における外来語語末長音の表記(長音符号による表記(長音符号表記)か長音符号を省く表記(符号無表記)か)の調査結果を表1に、CSJにおける外来語語末長音の発音(長音か短音か)の調査結果を表2にまとめた。表1の「全体」列にはBCCWJ(出版・書籍)の長音符号表記、符号無表記の度数と割合を、表2の「全体」列にはCSJの長音、短音の度数と割合を示した。また表1、表2ともア段音、イ段音、ウ段音等の母音別の度数、割合も示した。

表1、表2の「全体」列を見ると、BCCWJ(出版・書籍)では長音符号表記が83.0%、符号無表記が17.0%、CSJでは長音が92.3%、短音が7.7%となっている。BCCWJでは長音符号表記が、CSJでは長音による発音が定着していることが分かる。

表1：外来語語末長音の表記のゆれ(延べ)

	全体	ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段
符号	80986	47509	21968	6414	1953	3142
	83.0%	83.9%	74.9%	99.2%	98.8%	99.9%
符号無表記	16597	9145	7373	53	23	3
	17.0%	16.1%	25.1%	0.8%	1.2%	0.1%

表2：外来語語末長音の発音のゆれ(延べ)

	全体	ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段
長音	19578	11556	5405	1533	610	474
	92.3%	90.6%	93.1%	99.3%	98.9%	98.5%
短音	1630	1204	401	11	7	7
	7.7%	9.4%	6.9%	0.7%	1.1%	1.5%

語末母音別に見ると、BCCWJ(出版・書籍)、CSJとも語末の母音によって表記・発音のゆれに違いがある。符号無表記率を見ていくと、BCCWJ(出版・書籍)ではイ段音の符号無表記率が最も高く25.1%で、ア段音が16.1%でそれに次ぐのに対し、ウ段音、エ段音、オ段音は1%前後と非常に低い割合となっている⁶。CSJにおいてもBCCWJ(出版・書籍)と同様の違いがある。ア段音は短音率が最も高く9.3%で、イ段音が7.2%でそれに次ぐのに対し、ウ段音、エ段音、オ段音はやはり1%前後となっている。ただしBCCWJ(出版・書籍)に比べると、短音率の高いア段音、イ段音でもその割合は10%以下であり、短音率の低い他の母音との差は小さくなっている。

⁶ ウ段音、エ段音、オ段音では、長音符号で書くか省くかというゆれはほとんど見られないが、今回調査対象外とした長音符号と母音字による表記とのゆれ、長音符号と連母音による表記とのゆれが見られる。CSJにも同様の発音のゆれが見られる。

3. 2 語末音と表記・発音のゆれ

ここでは符号無表記率, 短音率の高いア段音, イ段音に着目し, さらに外来語語末長音の表記・発音の実態を見ていきたい。

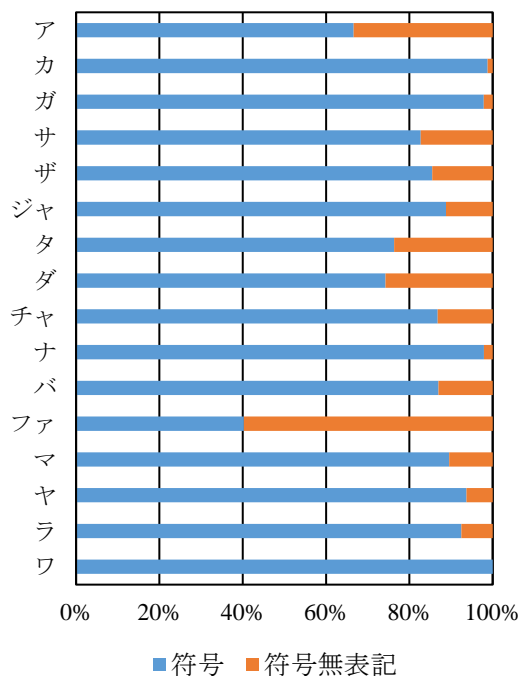


図 1: 表記のゆれ (ア段音, 語末音別)

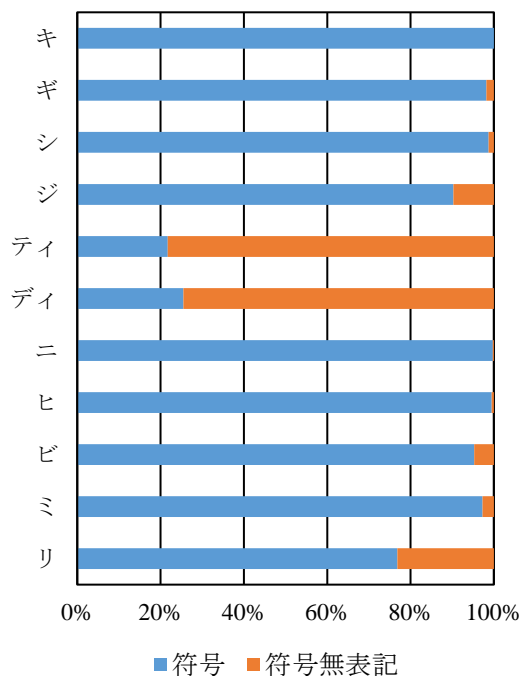


図 2: 表記のゆれ (イ段音, 語末音別)

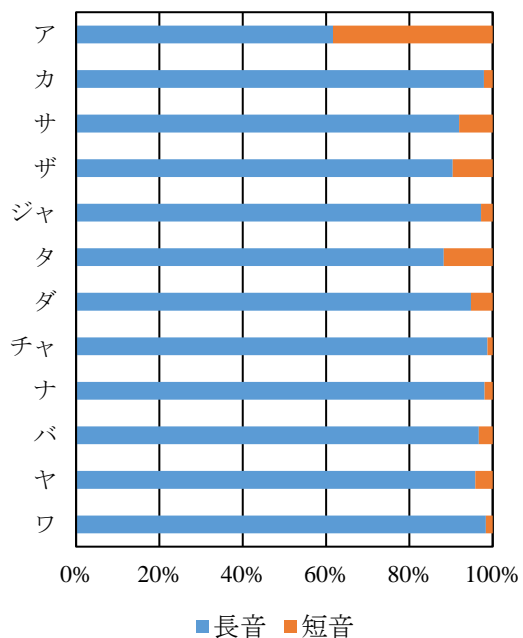


図 3: 発音のゆれ (ア段音, 語末音別)

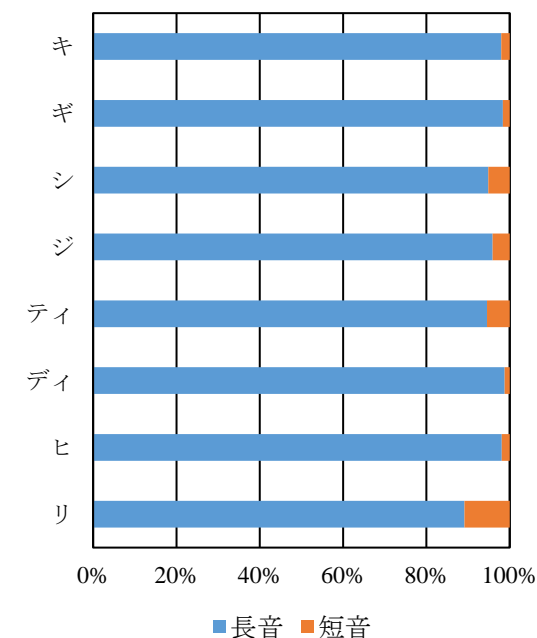


図 4: 発音のゆれ (イ段音, 語末音別)

語末がア段音, イ段音の語を対象として, より細かく語末音別に長音符号表記と符号無表記, 長音と短音の割合を調査した。図 1, 2 は BCCWJ (出版・書籍) の, 図 3, 4 は CSJ の調査結果である。図 1, 2 には度数 500 以上の語末音を, 図 3, 4 には度数 200 以上の語末音を示した。

図 1 から図 4 を見ると, 語末音によって表記・発音のゆれに違いのあることが分かる。ここでも符号無表記率を見ていくと, BCCWJ のア段音 (図 1) では, 「ファ」「ダ」「タ」の 3 音の符号無表記率が高い。「ファ」は 59.7% で最も高く, 「ダ」(25.7%), 「タ」(23.7%) がそれに続く。一方, 他の語末音はいずれも 10% 以下で低い割合となっている。イ段音 (図 2) でも同様の傾向が見られる。「ティ」(78.3%), 「ディ」(74.5%) では符号無表記率が 7 割を超えており, 「リ」(23.2%) も 2 割台である。一方, 他の語末音はいずれも 5% 以下で低い割合となっている。

CSJ のア段音 (図 3) では「ア」の短音率が 38.4% で最も高く, 「タ」が 11.8% でそれに次ぐ。しかしその他の語末音の短音率は 1 割を下回っている。イ段音 (図 4) については, 全体的に短音率が低く, 最も短音率が高い「リ」でも 10.9% で, 「リ」以外の音は全て 10% を下回っている。

3.1 節で述べたように, 語末の母音別に見た場合, BCCWJ, CSJ のいずれにおいてもア段音, イ段音の符号無表記率, 短音率が他の母音よりも高く, 符号無表記, 短音化の生じやすさに語末の母音による偏りが見られた。本節では語末のア段音, イ段音を対象に, 更に語末音別に表記・発音の実態を調査した。その結果, 上に述べたとおりア段音, イ段音とも全ての語末音において符号無表記や短音化が一樣に見られるのではなく, BCCWJ (出版・書籍) では「ファ」「ダ」「タ」「ティ」「ディ」「リ」の符号無表記が, CSJ では「ア」「タ」「リ」の短音化が他の語末音に比べて多いことが分かった。つまり, 語末音によって符号無表記, 短音化の生じやすさに偏りが見られるのである。

3. 3 語と表記・発音のゆれ

次に, どのような語に符号無表記, 短音化が起こっているのか見ていく。ただし, 紙幅の関係で, 符号無表記率, 短音率が 30% 以上の語末音を持つ語を対象とする。対象としたのは, BCCWJ (出版・書籍) では「ア」「ファ」「ティ」「ディ」の 4 音で, CSJ では「ア」の 1 音である。

語末音ごとに符号無表記, 短音の度数上位 5 語を表 3 から表 7 に挙げた (表 4 のみ上位 4 語)。表には各語の度数, 符号無表記 (短音) の度数, 符号無表記率 (短音率) を示した。また, 表の下にはその語末音を持つ語の異なり語数, 延べ語数, その延べ語数のうち符号無表記 (短音) で用いられた延べ数も示した。

表 3: 符号無表記度数上位語 (語末「ア」)

語彙素	度数	無表記 度数	%
エアー	283	238	84.1%
ピアー	33	33	100.0%
オンエアー	32	26	81.3%
ビューアー	30	24	80.0%
ドラッグストア	23	21	91.3%

※ 異なり 33, 延べ 1124, 符号無表記 369

表 4: 符号無表記度数上位語 (語末「ファ」)

語彙素	度数	無表記 度数	%
ソファー	518	388	74.9%
バッファー	154	146	94.8%
サイファー	11	11	100.0%
メタファー	55	2	3.6%

※ 異なり 16, 延べ, 916, 符号無表記 547

表5：符号無表記度数上位語（語末「ティ」）

語彙素	度数	無表記 度数	%
コミュニティー	608	548	90.1%
パーティー	829	467	56.3%
プロパティー	464	456	98.3%
セキュリティー	408	392	96.1%
アイデンティティー	368	332	90.2%

表6：符号無表記度数上位語（語末「ディ」）

語彙素	度数	無表記 度数	%
ボディー	473	431	91.1%
レディー	206	168	81.6%
メロディー	228	118	51.8%
スタディー	85	74	87.1%
パロディー	69	61	88.4%

※ 異なり 138, 延べ 5363, 符号無表記 4199 ※ 異なり 31, 延べ 1394, 符号無表記 1039

表7：短音度数上位語（語末「ア」）

語彙素	度数	短音 度数	%
ドアー	160	141	88.1%
クラシファイアー	37	23	62.2%
バリアー	22	20	90.9%
アウトドアー	26	18	69.2%
ストアー	47	18	38.3%

※ 異なり 35, 延べ 665, 短音 255

まず、BCCWJ（出版・書籍）において語末音「ア」を持つ語を示した表3を見ていく。表3の下にあるとおり、語末音「ア」を持つ語は異なり33、延べ1124である。延べ1124のうち369が符号無表記で用いられたものである。この表3から、《エアー》の符号無表記の度数が非常に高いことが分かる。《エアー》だけで語末音「ア」の符号無表記の64.5%を占める。また表3に挙げた5語で、語末音「ア」の符号無表記の96.7%を占める。

表4、表6、表7についても、表3と同様の傾向が認められる。表4を見ると、《ソファアー》が語末音「ファ」の符号無表記の64.5%を占めている。また語末音「ファ」の符号無表記は、表4に挙げた4語のみで生じている。表6では、《ボディー》が語末音「ディ」の符号無表記の41.5%を占めており、表6の5語で、語末音「ディ」の符号無表記の82.0%を占める。表7では、《ドアー》が語末音「ア」の短音の55.3%を占め、表7の5語で語末音「ア」の短音の86.3%を占める。

以上のことから、BCCWJ（出版・書籍）の語末音「ア」「ファ」「ディ」においては、一部の語に符号無表記が生じており、しかもそれらの語の符号無表記の度数や符号無表記率が高いため、これら三つの語末音の符号無表記率が高くなっているといえる。CSJの語末音「ア」についても同様である。

しかし、BCCWJ（出版・書籍）の語末音「ティ」については異なる傾向が見られる。表5の下に示したように、語末音「ティ」を持つ語は異なり138、延べ5393、符号無表記の延べ数は4223である。表5に示した語の符号無表記の度数は合計2197であるが、全体に占める割合は52.0%で、他の語末音に比べると低い割合となっている。

語末音「ティ」を持つ語は異なりで138あるが、このうち118語（85.5%）で符号無表記が生じている。したがって、語末音「ティ」は他の語末音とは異なり、特定の語に符号無表記が生じているのではなく、語末音「ティ」を持つ広範囲の語に符号無表記が生じている。また表5を見ると、符号無表記の度数が高く、符号無表記率も高い。広範囲の語に符号無表

記が生じ、しかも度数、符号無表記率が高いということが語末音「ティ」全体の符号無表記率を上げていると考えられる。これは語の問題というより、「ティ」という語末音の問題としてとらえることができる。

4. 考察

本節では、前節までの調査結果を基に外来語語末長音に関する表記のゆれと発音のゆれとの関係について考えてみたい。

BCCWJ（出版・書籍）、CSJの調査結果から、外来語語末長音については表記・発音ともにゆれが見られるものの、長音符号による表記、長音による発音が定着しているということができる。しかしBCCWJ（出版・書籍）の符号無表記率がCSJの短音率を約10%上回っていることから、表記と発音との間にずれが生じている。

今回の調査から、外来語語末長音において表記と発音のずれが生じた要因として、2点が挙げられる。まず1点目の要因として、特定の語において符号無表記（短音化）が高い度数（比率）で生じていることが挙げられる。表3、表4、表6、表7に挙げた語がこれに当たる。このうち、表3と表7とは同じ語末音「ア」を持つ語であるが、二つの表で一致する語は見られない。これは発音と表記とでずれが生じていることを示しているものといえる。

外来語の語末長音の表記で長音符号を省くことについては、JIS規格との関係が考えられる。JIS規格（JIS Z 8301:2008）では、様々な専門分野の表記を統一することは難しいとして、専門分野の慣習によるとしている。また規格の用語及び学術用語にない用語については、長音符号を除いた部分の拍数が3拍以上の場合は長音符号を付けない（例：エレベータ）が、同じく2拍以下の場合は長音符号を付ける（例：カバー）といった原則を示している。表3、表4、表6に挙げた語の中では、「ビューアー」「バッファー」といった情報系の用語がこのJISの規定に該当する。しかしこのような語の数は少なく、ほとんどが一般語である。これらの語において符号無表記率が高いことには、他の要因が関わっていると考えられる。この点については今後の課題としたい。

2点目の要因として、特定の語末音において符号無表記が広範囲かつ高い度数（高い比率）で生じていることが挙げられる。前節の表5に挙げた語末音「ティ」がこれに当たる。この語末音「ティ」の発音については、90%以上が長音となっている（図4）。発音では長音として安定しているが、表記ではそれとは関係なく、長音符号の無表記が生じているのである。

この「ティ」の表記と発音とのずれについては、石野(1991:47-48)が発音と表記の不一致の例として次のように述べている。

- (7) [レモンティー]は、だれもがこのように発音していると思われるが、これを[レモンティ]と書く人がいる。同様に[シティー]と発音している人がほとんどだと思われるのに、広告などでは「シティ」を目にすることがはなはだ多い。昔、暗殺された「ケネディー」大統領の名も、大抵の人が語尾を伸ばして発音していたはずだが、マスコミは統一的に「ケネディ」と書いていた。なぜか世間には、「ティ」や「ディ」の音価を[ティー][ディー]と誤解している人が多いようである。

語末音「ティ」については、3.3節で見たように異なり語数の85.5%、延べ語数の78.3%で符号無表記が生じており、石野(1991)が指摘するような意識を多くの人が持っている可能性がある。また、「テ」の後に母音字「ィ」を添えることで長音を表すと考えている可能性もある。これについても今後の課題としたい。

5. 終わりに

本稿では、BCCWJ（出版・書籍）とCSJとを資料として、外来語語末長音の表記と発音のゆれの実態調査を行い、さらに外来語語末長音の表記と発音との関係について考察を加えた。

外来語語末長音については、表記・発音ともにゆれが見られるが、長音符号による表記、長音による表記が定着している。ゆれについても、様々な語や語末音に生じているのではなく、特定の語や語末音において高い度数（比率）で符号無表記（短音化）が生じているということが明らかになった。外来語語末長音の表記と発音とのずれについても、この特定の語や語末音で符号無表記（短音化）が生じていることが要因となっていると考えられる。

今回の調査では、語末母音、語末音という観点から表記のゆれの実態を見ていった。今後の課題としては、拍数、語構成、語義といった観点から表記のゆれの実態について調査することが挙げられる。

また、語末のウ段音、エ段音、オ段音については、長音符号で書くか省くかという表記のゆれがほとんど見られなかったが、「ルールウ」等の長音符号と母音字による表記とのゆれ、「プレープレイ」「ショーショウ」等の長音符号と連母音による表記とのゆれが見られる。後者の長音か連母音かというゆれは、CSJにも見られる。今後、これらの表記・発音も含めて外来語語末長音の表記・発音のゆれを考えていく必要もある。

謝 辞

本研究は、JPSP 科研費 17K02794 の助成を受けたものです。

文 献

- 石野博史(1974)「外来語と視聴者 IV 外来語の表記と発音 — 識者アンケート結果報告(2) —」, 『文研月報』24(7), pp.35-48.
- 石野博史(1991)「表音と表語 — 外来語・外国語の発音と表記」, 『日本語学』10(7), pp.45-52.
- 小椋秀樹(2006)「第3章 形態論情報」, 国立国語研究所『日本語話し言葉コーパスの構築』(国立国語研究所報告 124), pp.133-186.
- 小椋秀樹(2013)「現代日本語における外来語表記のゆれ」, 相澤正夫(編)『現代日本語の動態研究』, おうふう, pp.151-171.
- 小椋秀樹(2014)「外来語語末長音の表記のゆれについて」, 『論究日本文学』100, pp.195-208.
- 小椋秀樹(2015)「外来語における[ei]の表記のゆれ」, 『第8回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』, pp.75-82.
- 小椋秀樹, 小磯花絵, 富士池優美, 宮内佐夜香, 小西光, 原裕(2011)『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集 第4版(上・下)』(国立国語研究所内部報告書 LR-CCG-10-05-01, LR-CCG-10-05-02) .
- 佐竹秀雄(1986)「外来語表記法の問題点」, 宮地裕編『論集日本語研究(1) 現代編』, 明治書院, pp.407-422.
- 塩田雄大(2006)「外来語の発音とカタカナ表記 ～ [エイ・ケイ・セイ] などを中心に ～」, 『放送研究と調査』56-3, pp.74-75.
- 宮島達夫, 高木翠(1974)「外来語の表記の変化とゆれ」, 『計量国語学』71, pp.1-17.
- 山崎誠・前川喜久雄(2014)「第1章 コーパスの設計」, 前川喜久雄監・山崎誠編『講座日

- 本語のコーパス 2 書き言葉コーパス ― 設計と構築 ―』, 朝倉書店, pp.1-21.
- 山下洋子(2012)「外来語の発音・表記について～[wei]のカタカナ表記と語末の長音～」, 『放送研究と調査』 62-12, pp.74-79.
- 山下洋子(2015)「外来語の発音・表記について～用語の決定～」, 『放送研究と調査』 65-5, pp.86-93.
- 山下洋子(2016)「用語の決定」, 『放送研究と調査』 66(4), pp.86-95.

関連 URL

- 国立国語研究所コーパス開発センター編(2015)『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(短単位データ 1.1, 『中納言』 2.2.2) <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>
- 国立国語研究所コーパス開発センター編(2015)『日本語話し言葉コーパス』(第4刷)
http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/csj/
- 国立国語研究所コーパス開発センター・全文検索システム『ひまわり』ver.1.5.4
<http://www2.ninjal.ac.jp/lrc/index.php?%C1%B4%CA%B8%B8%A1%BA%F7%A5%B7%A5%B9%A5%C6%A5%E0%A1%D8%A4%D2%A4%DE%A4%EF%A4%EA%A1%D9>
- 日本工業標準調査会 <https://www.jisc.go.jp/>